

2025 年度 医療事務科 第 2 回教育課程編成委員会 議事録

1. 日時 2026 年 3 月 9 日(金) 13:00 ~ 14:00

2. 場所 YIC 情報ビジネス専門学校 2 号館 23 教室

3. 出席者

- 委員(外部):
 - 道永 和能 氏(山口県厚生農業協同組合連合会)
 - 兼重 顕治 氏(医療法人協愛会 阿知須共立病院)
- 学校関係者:
 - 河津 道正(校長)、小田 政江(副校長)、三船 龍(事務長補佐)、森野 茂弘(教務課長)、豊田 菜摘(教務課長補佐)、岡屋 ちひろ(学科長)

4. 議事内容

(1) 開会および挨拶

副校長の挨拶に続き、河津校長より今年度の取り組み報告と新年度に向けた提案について、委員の助言を仰ぎたい旨の挨拶があった。

(2) 今年度の取り組み報告(資料 1 に基づく)

- 在籍状況: 2 年生 13 名が全員卒業し、1 年生 9 名が 2 年生へ進級予定である。新入生は 3 月 4 日時点で 10 名となっている。
- 検定取得:
 - 医療系: 「診療報酬請求事務能力検定試験」では 12 名受験中 7 名が合格した。なお、同検定協会は今年度をもって解散となる。
 - 1 年生: 調剤事務はほぼ全員が合格し、1 名が 3 月 28 日に受験予定である。ホスピタルコンシェルジュ 3 級は結果待ちの状態である。
 - ビジネス系: Excel や PowerPoint は概ね良好な取得率だが、簿記 2 級は 6 名受験中 3 名合格に留まった。
- 就職状況: 就職希望者 11 名のうち 10 名が決定(内定率 90.9%)。内訳は病院 3 名、診療所 5 名、調剤薬局 1 名、一般企業 1 名である。2 名は体調面を考慮し、アルバイト・パートでの活動に切り替えた。
- インターンシップ: 1 年生 9 名全員が 3 月に 1 週間の実習に参加している。
- 電話対応コンクール: 2 年生 5 名が県予選を通過し本戦に出場したが、惜しくも入賞は逃した。

(3) 2026 年度に向けた教育課程の変更点と検討事項(資料 2・3 に基づく)

次年度は診療報酬改定の年にあたるため、テキスト発刊時期(6 月末)の影響を考慮した変更案が提示された。

- ホスピタルコンシェルジュの分割化: 前期に座学、後期にロールプレイングを行う 2 単位構成に変更する。
- 調剤事務科目の変更: 開講を後期から前期に前倒しする。改定前の点数で仕組みを学

び、検定受験を行う。

- 医療保険科目の独立：レセプト作成よりも保険制度や公費の知識が重要との意見を受け、1 年次前期に新設する。
- 医療コミュニケーション科目の新設：医療機関に特化した電話応対や礼儀作法を習得させるため、既存の科目から独立させる。
- 医療事務科目の開講時期変更：改定版テキストに合わせ、前期から後期開講に変更する。
- 学科改変：2026 年度よりホテルブライダル科と統合し、**「ビジネス科」**内のコース制（医療ビジネスコース等）へ移行する。

(4) 質疑応答および委員からの意見

- マイナ保険証への対応：現場ではマイナ保険証の利用が増えている一方、不具合時の対応や、マイナ保険証を持たない患者への「資格確認書」の判別が重要になっている。ロールプレイングでもこれらのケースを取り入れるべきとの議論がなされた。
- 医療・介護 DX の進展：医療・介護現場での DX 化が進んでおり、電子カルテ導入による混乱や、システム維持費の高騰が課題となっている。医療と介護両方の知識を持ち、システムに対応できる人材の需要が高まっている。
- 留学生と多文化共生：介護分野では留学生（ベトナム、ネパール等）が増えており、日本語能力向上のためのアプリ活用や、国家試験の自動ルビ振りツールの開発事例が紹介された。一方で、文化や宗教（食事等）の違いへの理解も必要である。
- 動機付けの重要性：1 年次の早期から「一人暮らしの生活費」などの現実的なシミュレーションを含むキャリア教育を行うことで、学生が堅実な就職意識を持つようになり、インターンシップへの意欲向上に繋がっている。

5. 次回の開催予定 2026 年 9 月～10 月頃を予定。